



## 「しも柱」はどうしてできるの

### 冬の夜、しめった地面にできる

「しも柱」は冬、赤土の多い関東地方で良く見かけられます。土の中の水分が地面や地中でこおってできたもので、直径2～3ミリメートル、長さ数センチメートルの氷の柱が集まったものを言います。長いもので10センチメートル以上のものもあります。

### 土の中から出てきた水が、次々にこおる

関東地方の赤土は、地中の水分が上に上がっていきやすく、こまかい土のすき間を上がってきた水が0度C以下の地面にとどいたとき、こおります。この、こおることを次つぎにくり返すので、「しも柱」は上へどんどん長くなるのです。

この「しも柱」はけっこう力が強く、線路をもち上げたり、家を傾けたりすることもあります。（監修 村山貢司）

#### ●しも柱のでき方

